

(参考) 保育所でみられる主な感染症一覧

疾患名	主な症状	感染期間	登園のめやす
1 百日咳	かぜ症状から次第に咳が強くなる。特有の咳発作(コンコンと咳込んだ後にヒューと笛を吹くような音を立てて息を吸う)が出始め、長期間咳が続く。	咳が出現してから、4週目頃まで。抗菌薬治療開始後7日程度で感染力は弱くなる。	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌薬による治療を終了したとき
2 麻疹(はしか)	高熱、咳、鼻汁、めやに、口内に白い斑点。一時下がった熱が再び高くなったとき、全身に赤い発しんがみられる。	発熱出現1～2日前から発しん出現4日目頃まで	解熱後3日を経過してから
3 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺が腫れる。痛みを伴う。	耳下腺腫張1～2日前から腫張5日目頃まで。唾液中には腫張6日前から9日目後までウイルスが検出される。	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫張が発現してから5日を経過し、かつ全身状態が良好になったとき
4 風しん	発熱、顔面から始まり全身に広がる淡紅色の発しん	発しん出現7日前から発しん出現後7日目頃まで	発しんが消失してから
5 水痘(水ぼうそう)	発しんが身体から全身に広がり、紅斑、丘疹、水ぼう、膿ぼう、痂皮(かさぶた)の順に進行し、同時期に混在する。発しんはかゆみが強い。	発しんが出現する1～2日前からすべての発しんが痂皮化するまで	全ての発しんが痂皮化してから
6 咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振。眼の症状として結膜充血、涙が多くなる、まぶしがる、めやになど。	症状が出始めた最初の数日が最も感染性があり、その後、数か月、排泄が続くこともある。	主な症状が消えた後2日経過してから
7 結核	初期結核の症状として、発熱、咳、疲れやすい、食欲不振、顔色が悪いなど。	喀痰の塗抹検査で陽性の間	医師が感染の恐れがないと認めたとき
8 髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、嘔吐、意識障害、出血斑	—	医師が感染の恐れがないと認めたとき
9 腸管出血性大腸菌感染症	無症状の場合もあるが、有症状の場合は、頻回の水様下痢便、激しい腹痛、血便	便中に菌が排泄されている間	医師が感染の恐れがないと認めたとき
10 流行性角結膜炎	まぶたの腫れ、めやに、異物感など	症状が出始めた最初の数日が最も感染性があり、その後、数か月、排泄が続くこともある。	結膜炎の症状が消失してから
11 急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血	ウイルス排出は咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週から数ヶ月間	医師が感染の恐れがないと認めたとき
12 インフルエンザ	悪寒、頭痛、高熱により発病。だるさ、腰痛、筋肉痛などを伴う。脳症を併発する場合がある。異常行動があらわれることもあり、注意しながらの見守りが必要。	症状が有る期間(発熱1日前から3日目までが最も感染性が強く、7日目頃まで)	発症後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過したとき ★「保護者による治癒報告書」の提出が必要です
13 新型コロナウイルス感染症	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消火器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常など	発症2日前から発症後7～10日間(発症後5日間が特に他人への感染リスクが高い。)	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過したとき ★「保護者による新型コロナウイルス感染症治癒報告書」の提出が必要です
14 ウイルス性胃腸炎(ロタウイルス・アデノウイルス・ノロウイルス等)	嘔気・嘔吐、下痢など	症状の有る時期が主なウイルス排泄期間。便中に3週間以上排泄されることもある。	嘔吐、下痢等の症状が治まり、全身状態が良くなったとき
15 マイコプラズマ肺炎	咳、発熱、頭痛などの風邪の症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。中耳炎、鼓膜炎や発しんなどを伴うこともある。	症状の発現時がピークだが、保菌は数週から数か月間持続する。	発熱や激しい咳が治まり、全身状態が良くなったとき
16 RSウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳、呼吸の際にゼーゼー・ヒューヒューといった雑音、呼吸困難	通常3～8日(乳幼児では3～4週)	呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなったとき
17 手足口病	軽度の発熱と水ぼう性の発しんが口内や喉、手足の末端やおしりにみられる。口内炎がひどくて食事がとれないことがある。	ウイルス排出は咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週から数ヶ月間	発熱や口腔内の水ぼう・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるとき
18 伝染性紅斑(リンゴ病)	軽い風邪の症状の後、両ほが赤くなったり、手足に網目状の紅斑ができる。	風邪の症状が現れてから発しんが現れるまで	全身状態が良くなったとき
19 ヘルパンギーナ	突然の高熱、喉の痛み。喉に赤い発しんが見られ、次に水疱となり間もなく潰瘍となる。喉の痛みがひどくて食事がとれないことがある。	ウイルス排出は咳や鼻汁から1～2週間、便からは数週から数ヶ月間	発熱や口腔内の水ぼう・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるとき
20 溶連菌感染症	上気道感染では発熱、喉の痛み、喉の腫れや化膿など	抗菌薬投与後24時間が経過するまで	適切な抗菌薬による治療開始後24時間が経過してから
21 突発性発しん	高熱(生まれて初めての高熱である場合が多い)が続き、解熱とともに発しんが出る。発しんは数時間から数日間持続する。けいれんや稀ながら脳症が起こることもある。	—	解熱し、機嫌が良く、全身状態が良くなったとき
22 伝染性膿痂疹(とびひ)	赤斑を伴う水ぼうや膿ぼうが破れてびらん、かさぶたをつくる。かゆみを伴うことがある。	—	登園に制限なし。ただし、皮膚が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること。
23 アタマジラミ症	多くが無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある。	産卵から孵化までの期間は10日から14日。成虫までは2週間。	登園に制限なし。ただし、目の細かいクシを毎日丁寧に頭髮の根本からすいて、シラミや卵を取り除く、毎日シャンプーをする、薬局でシラミ駆除剤を購入して治療するなど適切な治療が必要。
24 帯状疱疹	小さな水ぼうが神経の支配領域に沿って片側性に帯状に現れる。かゆみや痛みをともなう。	すべての発しんが痂皮化するまで	すべての発しんが痂皮化してから

「2018改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(2018.3 厚生労働省)

「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説(2018年7月改訂版)」(日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会)を基に作成

※保育所でみられる主な感染症の症状、感染期間、登園再開のめやすです。お子さんに感染症の症状がみられるときは、医療機関を受診しましょう。症状や回復には個人差や例外もありますので、登園を再開される際は、お子さんの体調が登園が可能な状態までに回復したことを医師にご確認ください。(1～11までの感染症に罹患した場合は、登園再開の際に医師の記載した意見書を保育所に提出していただく必要があります。)

★インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、登園再開の際に保護者の記載した治癒報告書を保育所に提出していただく必要があります。